

## 赤十字の活動を支えてくださる方々

赤十字の活動は国などの助成ではなく、県民のみなさまのご寄付を財源に活動しております。今回はその活動を支えてくださる方々をご紹介します。

### 赤十字奉仕団～前橋市富士見赤十字奉仕団～

財源確保の一翼として、奉仕団（ボランティア）や自治会のみなさまには、5月の赤十字運動月間にあわせて一軒一軒丁寧に町内を回り、活動資金へのご協力をお願いしていただいております。今回は、前橋市富士見町で活動している富士見奉仕団の方々に同行したところ、「自分たちの住む町をより良くしていきたい」という思いから行動へと繋がっていることが伝わってきました。今年も5月になると赤十字奉仕団の方々が訪問されますので、是非ご協力よろしくお願いします。



温かい笑顔で赤十字への理解を広げる

### 群馬県赤十字有功会

#### ～高崎市地区赤十字有功会 川浦秀男様「紺綬褒章の受章」～

寄付の累計が一定の金額に達すると、有功章が受章されます。その受章者の有志の集まりが群馬県赤十字有功会であり、現在約890名の方が会員として活動しております。

1月31日、高崎市にお住いの有功会員、川浦秀男様に片野清明副支部長（群馬県健康福祉部長）から紺綬褒章が伝達されました。今回は、東日本大震災での日本赤十字社の活動を高く評価いただいたこと、また、107歳（茶寿）の記念としてご寄付をいただいたことによる受章です。なお、突然の訃報に驚いた限りですが、2月19日川浦秀男様がお逝去されました。川浦様のこれまでのご支援に深く感謝申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。



紺綬褒章受章の様子

（左：川浦修一様 中央：川浦秀男様 右：片野副支部長）

## 赤十字が身近な組織として感じてもらえるために

全国的に赤十字が活動する様子はPR不足だと言われております。赤十字の特色を生かし、県民のみなさまに役立ちたいという想いから、赤十字マラソン隊を結成しました。

### 赤十字マラソン隊出動！～ランナーが安心して走れるために～

11月3日（日）、毎年1万人以上のランナーが集まる「ぐんま県民マラソン」に、AEDを背負った赤十字マラソン隊が、ハーフ、10km、リバーサイド（4.2km）の3つのコースに分かれ、招待選手として初出場しました。メンバーは群馬県支部、前橋赤十字病院、原町赤十字病院の医師、看護師、事務職員の計13名で結成され、救急法等の講習の普及を兼ね、ランナーの方に安心して走ってもらうことが目的です。レース中は、ランナーの方から「あなたの側で走っていると安心だよ。」「私は看護師なので、何かあれば声をかけてください。」などと声をかけられました。

そして、2月28日（金）の日赤全国広報会議にこの取り組みを紹介したところ、174の広報事例の中から3位に輝き、社長から楯を授与されました。

次回に向けて、メンバーを多方面から増やすなど、精力的に活動していきたいと考えております。



約2kgのAEDを背負いコースを駆け抜ける

# ぐんまの赤十字

日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

発行：日本赤十字社群馬県支部 〒371-0833 前橋市光が丘町32-10 電話 027-254-3636  
URL <http://gunma.jrc.or.jp/>

第14号

平成26年4月1日



## ●●● 青少年赤十字学校加盟率が全国第1位に ●●●

この度、青少年赤十字（JRC）の普及活動が実を結び、群馬県の学校加盟率が89.6%と全国第1位に輝きました。

青少年赤十字は、第一次世界大戦中に子どもたちが、戦争の犠牲になっている方たちを助けようと立ち上がったことを発端に誕生した事業です。そして、誰の心の中にもある「困っている人や苦しんでいる人を見たら何か役立つことをしてあげたい」という気持ちを、社会への奉仕活動として実践していきます。大正11年（1922年）5月に日本で初めて滋賀県に青少年赤十字が誕生し、群馬県では同年9月に結成されました。昭和57年（1982年）には群馬県教育委員会に協力を仰ぎ、「県教育行政方針」に青少年赤十字活動の一項が盛り込まれ、県内学校の加盟が加速されました。

日本赤十字社群馬県支部では、リーダーシップ・トレーニング・センターや国際交流派遣事業などを開催しており、活動を通して児童・生徒の成長を見ることが出来ます。その他県内各地の学校で救急法や災害時の炊き出し体験などの活動が盛んに行われております。

活動資金にご協力ください。

Our world. Your move.  
赤十字150年

癒しのリラクゼーション&ハンドケア教室開催



2人1組になってリラクゼーションに取り組む参加者

10月18日(金)、健康生活支援講習の中でリラクゼーション及びハンドケアに特化した教室が、みなかみ町保健福祉センターで開催されました。男女12人が参加し、参加者からは「赤十字がこのような講習も行っているなんて知らなかった」、「とても気持ちが良いのでみんなにしてあげたい」などのご意見が寄せられました。高齢社会の現在、高齢者の健康や自立を目指し、年齢を問わず、若年層も対象とした生活習慣病予防や地域支援の在り方などを学ぶことができ、楽しく身につく講習となっております。一定の人数を集めていただければ、講師を派遣することができますので、ご依頼をお待ちしております。

沼田市赤十字奉仕団が地域防災訓練で炊出し班として参加

11月17日(日)、沼田市赤十字奉仕団は沼田市立沼田東中学校を会場に300人が集まる沼田市地域防災訓練に、炊出し班として参加しました。少しでも地域の方に防災時の食事について知って欲しいとアルファ米(非常食用のご飯)と豚汁を参加者に配膳しました。訓練に参加した同奉仕団の角田かつ江委員長は、「合同訓練に参加し、自分たちができることを改めて確認できた。今後も非常事態に備えて準備をしていきたい。」と次回に向けて意気込まれました。



乾燥したお米にお湯を注ぐとおいしい炊き込みご飯ができるアルファ米に注目が集まる

雪上安全法救助員養成講習開催

2月6日(木)から4日間、雪上での応急手当や運搬、パトロールなどを学ぶ講習が群馬県、千葉県、神奈川県支部の3県合同で開催されました。「毎年スキーに行くので」、「事故が起きたときに何もできないのが嫌だから」などの理由から群馬県からは7名、全体で17名受講生が集まりました。泊まり込みの講習に参加者は真剣に臨み、講習後には、「難しかったが勉強になった」、「学習した内容を生かしたい」など、ご意見が寄せられました。群馬県支部では休講していた本講習を再開して3年が経ちましたが、雪上での事故やけがの軽減を目指し、引き続き実施をしていく予定です。



雪上での運搬搬送の様子

青少年赤十字ワークショップ発表会開催 ～63人の高校生メンバーが集まる～

12月7日(土)、自分たちが通っている学校生活がより良くすることを目的とした青少年赤十字高等学校ワークショップ発表会が群馬県支部にて開催されました。県内各地の高校生メンバーが63人集まり、午前にはベトナム派遣報告や各学校の取り組みが報告され、午後には高校生が企画した、地震対策オペレーションと称した地震が起きた時の避難方法について、寸劇で表現されました。良い例、悪い例を比較したり、ラジオ番組を模倣したり、音響を携帯電話でダウンロードしてリアリティーをもたせるなど、工夫を凝らした発表がされ、翌日には新聞にもその様子が掲載されました。今後もメンバーたちが活発な活動ができるよう支援していきます。



メンバーが取り組みを報告

高崎市赤十字奉仕団・日赤群馬県支部が第1回町づくり避難訓練に参加



三角巾に初めて触れる子どもたちは興味深々と教わっていました

10月26日(土)、高崎市立金古小学校にて第1回町づくり避難訓練を行いました。台風27号の影響で校庭を予定していた訓練は中止となりましたが、800人の参加者が集まり、校舎内では赤十字奉仕団によるけんちん汁の炊き出し、体育館においては日常生活でも使える毛布による担架搬送と三角巾による応急処置を群馬県支部職員が講師として行われました。今回の訓練により、自治会、PTA・保護者、学校、赤十字奉仕団、消防など各機関が関わりあう、地域のモデル訓練となりました。

群馬県総合防災訓練実施

9月7日(火)、「群馬県南東部を震源とした大地震が発生した」との想定のもと、群馬県総合防災訓練が実施されました。見学者を含めて約3,700の方が参加し、県、伊勢崎市、消防などの各機関合同となります。倒壊した建物などから負傷者を救うため、救護班と接骨師奉仕団は連携して救助活動にあたりました。同時に、赤十字飛行隊が上空から被災地域の視察を行い、アマチュア無線奉仕団へ報告するという特殊奉仕団同士の連携訓練も行われました。また、防災ボランティアは、土嚢作りや倒壊した社屋の片付けなどの災害時に起こり得る被災者ニーズの対応にあたりました。これからも群馬県や市町村自治体などと協力し、いざという時に備えて訓練を行っていきます。



伊勢崎市「八斗島ちびっこ広場」を会場に